

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

地頭、体育会採用から脱せよ（大学4年間の学習暦を見よ）

坂東 眞理子（昭和女子大学理事長・総長）

- 残念なことに、日本では大学入学時の偏差値が、そのまま大学のランキングとなっている。大学4年でどれだけ勉強して、どんな力をつけたかという学習歴を、企業はあまり気にしていない。企業がそういう態度を続けると、学生はますます勉強しなくなります。「自分は何ができるか」ということについて、はっきりとして強みを持たないと、企業の中で必要な人材になれません。
- 企業の採用担当者は「誰でも来てください」という態度で、必要な人材の「仕様書」を明確にしていながら「応募者が5万人に達しました」と言っている。「何々大卒で地頭はいい」「鍛えれば何とかなる」「体育会系で体も丈夫じょうぶ」と考えているのでしょうか。採用方法が、雑なのです。
- 日本の旧来型エリートはPDCA（計画、実行、評価、改善）が得意で、うまく説明できる人でした。これからは「OODA」（ウーダ）、つまり観察、方向付け、決心、実行が必要になる。大学、企業共に変わっている最中です。私たちの変化は必ずしも企業へ伝え切れていないところもあります。このギャップを埋めていきたいと考えています。（参考：「日経ビジネス」2021年8月9日号）

経営者のための理念・哲学

1番重要なことは、他者への思いやり

数土 文夫

（JFEホールディングス名誉顧問）

- 現在、人類の将来のためという理由から世界的規模でSDGs（持続可能な開発目標）やESG（環境・社会・企業統治）に配慮している企業を重視して行う投資が叫ばれています。そのための技術開発や人材確保、あるいは投資先の選択が重要だと喧伝けんでんしています。
- それ自体に異議はないのですが、やはり一番重要なことは「惻隱そくいんの心」、他者への思いやりではないでしょうか。これなくして何も始まりません。「仁はじめの端なり」です。かつての日本人の真摯しんしな生き方を思い起こしそこに立ち返るべき時が来ています。

（参考：「致知」：2021年10月号）

経営者のための経済学

有力エコノミストの日本経済予測

- 政治、政府、財政、税制、経済政策、労働市場などすべての分野で改革が必要。従来の「改善」にとどまれば衰退しかない。その前にどんな国を目指すか、議論と納得が必要。（足立正道「UBS証券」）
- 雇用政策の軸足を企業の存続から、個人のスキル習得や移動支援へシフトすることが必要。でないと、人材ミスマッチが拡大し、産業構造転換が遅れ、国際競争力を失う。（武田洋子「三菱総合研究所」）
- 世界でデジタル、グリーン化が加速し日本に不利なルールができるおそれがある。以前からの課題の生産性向上策をスピードを上げて実現していかないと、ますます後手に回る。（美和卓「野村証券」）
- いかなる分野を成長の柱とするのか、具体的なビジョンが見えてこない。生産性上昇のための労働市場の流動化と「資本の深化」を促す施策を議論する必要がある（山川哲史「バークレイズ証券」）

（参考：「週刊東洋経済」2021年8月21日号）

古典に学ぶ

事業は多数社会に利益を与えること

（解説）それから余が事業上の見解としては、一個人に利益をある仕事よりも、多数社会を益して行くのであればならぬと思ひ、多数社会に利益を与えるには、その事業が堅固に発達して繁盛して行かなくてはならぬということを常に心していた。

（参考：渋沢栄一「論語と算盤」：国書刊行会）